

自然が育て、人が守る

廿日市地域から車で約1時間の吉和地域。さらに20分、関係者のみ入ることが出来る山道を進むと、所々にわさび床が見えてきます。

「吉和では太田川の源流、冠山の湧き水で、わさびを育てています。わさびは人が調整して育てられるものではありません。水が第一。水や床をきれいに保つのが仕事です。」と話す植本直樹さん。

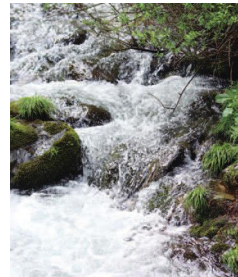
「わさびに適する自然は限られています。高齢で生産を辞めてしまう人の床を引き継いだり、2人の息子たちに技術や経営方

法、そしてわさび生産への思いなどを受け継いだりして、吉和の豊かな自然の恵みを吸収して育つわさびを守るために、私たちは少し手助けをしているだけです」と採ったわさびの大きさに、目を細め話します。

「絶やしちやいけん」という思いでやっています。わさびも生き物なので季節や個体によって味が違います。個性は違っても、おいしいものを作り続けること。代が変わっても、吉和のわさびの良さを次の世代へ伝えていくことが今の使命です」と笑顔で話してくれました。



写真右と中・飲めるほどきれいな吉和の軟水が全国でも評価の高いわさびを育む。写真左・主に息子さんたちが毎日手作りするわさび漬けなどの加工品。発売当初から「佐伯醤油」を使っている。



はつかいら人

vol.7

廿日市市で輝く人を紹介します

株式会社植本わさび本舗 植本直樹さん (59歳・吉和)

編集後記

廿日市市内には、地域の祭りはもちろん、写生大会や合唱コンクールなど楽しいイベントが多くあります。トライアスロン大会やけん玉ワールドカップなどの大きなイベントを開催できるまちでもあります。また、水や緑が美しい場所、地元食材を使ったレストランなど、家族や友人たちとのんびり過ごせるスポットも盛りだくさん。

私たちの住むまちには魅力がたっぷりあります。まちを好きになると、まちのために動きたくなる。まちのために動く、自分や家族が住みやすいまちになる。休みの日にはぜひ、まちの魅力を探しに出掛けてみてください。

吉岡里奈

今年オリンピックイヤー。8月には、ブラジルのリオ・デ・ジャネイロで開催されます。

そのオリンピックの予選となる国際大会、ASTCアジアトライアスロン選手権2016/廿日市が4月29日から5月1日の3日間で開催されました。大会を成功裏に終えることができたのも、大会関係者をはじめ、ボランティア、応援してくださった皆さんのおかげです。改めて、廿日市のまちの力を感ずることのできた大会でした。

西岡秀治

目の不自由な人のため

■ 音声読み上げのための「広報はつかいち」テキスト版をホームページに掲載しています。
■ 「広報はつかいち」のウェブサイト、ポスター、図書、点訳本があります。問い合わせ先 社会福祉協議会 ☎0294

発行 廿日市市 〒738-8501 広島県廿日市市下平良一丁目11番1号
☎0829290001(代)・☎08292901059

編集 分権政策部 経営政策課 広報統計グループ
ホームページアドレス <http://www.city.hatsukachi.hiroshima.jp/>
フェイスブックアドレス <http://www.facebook.com/hatsukachicity>